女性研究者ロールモデル 29

教育学部
教　授　**鳥飼香代子**さん
Torikai Kayoko

●プロフィール

1975年　大阪市立大学大学院生活科学研究科博士課程後期入学
1980年　熊本大学教育学部講師
1998年　博士号取得
1999年　熊本大学教育学部教授

一人の生活者としての感覚を都市計画に活かす。

住空間におけるジェンダーについて学ぶ

江戸時代の面影が今なお色濃く残っている岡山県倉敷市で鳥飼さんは生まれ育ちました。中学生の頃に米国のホームドラマを見ていたら、双子の女の子の一人が都市計画に携わる仕事につきました。その時、鳥飼さんは、女の子が自分の夢を実現していくストーリーにとても共感しました。育った環境も自由でしたが、鳥飼さんも夢や憧れを持って大学へ進学し、建築を学びます。途中、都市計画から住宅計画へ専攻を移行しましたが、当時、都市計画の方で女子の就職がまだ見込めなかったこともあり、大学院研究室の恩師の勧めで変更したそうです。住空間におけるジェンダー等を学び、先を見越した間取りの共同研究では、DKからLDKへ（Lの提案）の発表なども手がけました。

1980年に熊本に来てから、いわゆる全国統一型の住の考え方を地方都市にそのままあてはめることに無理があることに気づきます。そして、地方都市の住宅理論研究をスタートさせます。具体的には、和室二部屋を続き間にするなどですが、それ以外にも、町文化と農村文化の違いを考慮した住宅計画など、熊本にきて多くのことに気づきました。

ドイツの都市計画を分析して

ドイツ留学を経て、ここ10年くらいは地方（＝熊本）の都市計画に力を注いでいます。高齢者医療費増大というのっぴきならない状況が背景にあったというドイツでは、中心街復活に成功した事例を見てきました。都市の中心の空洞化を修復するには?公共交通の充実?誰もが自由に使える公園などの自治空間の整備?朝市やフェスティバル等生活密着型イベントの定着といったことが必要だということです。閉鎖的状況に置かれがちな高齢者層が気軽に中心街に出かけられるような町にすることが何よりも大切なのです。

教育学部地域共生社会課程主任を務めており、＜中山間地域における高齢者の生活圏整備課題に向けて＞というテーマで、ゼミ学生とともに研究に取り組んでいます。甲佐町と菊池市をフィールドにして、バリアフリー住宅にむけての改築行動、徒歩圏、生活関連施設等の検討を通して課題を明らかにするというのがその内容です。

未来を担う子ども達のために

また、3年前からは、グリーン・ツーリズム、ブルー・ツーリズムといった体験型ツーリズム（交流）活動を続けています。子ども達が農山村や漁村でスローライフを体験することによって何かが変わっていけばと願っています。ご自分の子育ては時間的にも体力的にも全く余裕がなかったそうですが、未来を担う子ども達のために、大切なものを少しでも伝えていきたい。「一人の生活者として自分の生活する地域に根差し、そこで起こる様々な問題や課題を共に考え、共感し、問題の解決に臨む人間でありたい」。鳥飼さんの情熱に触れた思いがしました。また、研究者を目指す人たちへ「多岐にわたって、とにかく本をたくさん読み、いつも考えること」というアドバイスをいただきました。

「日本学生支援機構の帰国留学生」事業として、台湾の「南栄技術学院」へパソコンとプロジェクターの贈呈をしている。